

蓮根掘る電車のやうな連結部

工藤泰子

「俳諧の連歌」は、滑稽を言って、座の参加者を喜ばせた。おそらく笑わせるだけでなく感心もさせたのであろう。連結部とは上手いこと言ったね。



古妻のマグマにビビリうそ寒し

青木輝子

自身のことを詠んだ一句。内部に渦巻いている「マグマ」に気付き愕然としたのだろう。ビビっているのは夫だが、悟りきれない自分を見詰めた句。



この秋思ひどいあげ底ではないか

小林英昭

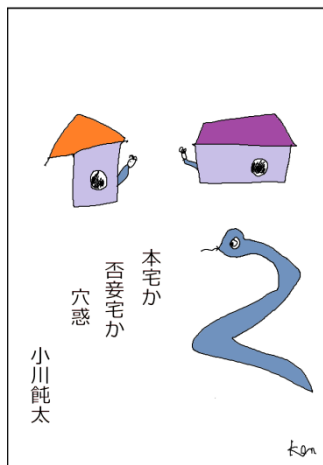
深刻と思っていた懸案事項が思いもかけずあっさりと解決。結局は欠伸一つで終止符を打つことに。難しそうに見えたけど、何だ上げ底だったか。



秋晴や婆のプライド杖畳む

井野ひろみ

齡をとると足から弱るから杖を使うことになる。初めのうちは抵抗がある。他者から見られてどうこうじゃない。自分に対して許せないのだ。



本宅か否妾宅か穴惑

小川鈍太

「穴惑」とは、冬眠のための穴が見つからなくてウロウロしている蛇のことを言うと思っていたが、実は別の理由だったとは。ふーん、なるほどねえ



秋雨の貼り付いているふくらはぎ

鈴鹿洋子

スカートで外出したら、秋雨にむき出しのふくらはぎが濡れてしまった。その冷たさを「貼り付いて」と実感したのだ。俳句は精神の記録ツール。